

## 「徳島県沿岸の有害・有毒プランクトン図鑑」の公表について

環境増養殖担当 吉田 和貴

Key word ; 赤潮, プランクトン, 漁業被害, 貝毒, 色落ち

### 有害・有毒プランクトンとは

プランクトンとは、潮の流れに逆らえない（主に）微小な生物の総称であり、魚類の餌となる等、海洋生態系を支える重要な役割を持っています。時折、これらのプランクトンは異常に増殖し、海面が着色することがあります（写真1）。これがいわゆる「赤潮」です。赤潮の原因となるプランクトンにはさまざまな種類があり、赤潮化しても魚介類にはほとんど無害なものがある一方、海面の着色を伴わない程度の増殖でも魚介類を弱らせたりへい死させたりするものもあります。魚介類をへい死させるプランクトン（有害プランクトン）は、ハマチやカキ等の養殖業に大きな被害をもたらす危険性があるため、養殖業者はこれらの発生を非常に警戒しています。

赤潮の影響を受けるのは魚介類だけではありません。ケイ藻は、海洋中に最も普遍的に存在する植物プランクトンですが、一部の種は、秋～冬季に大量発生し、海域の栄養塩類を多量に消費します。これにより、養殖ワカメやノリの生育に必要な栄養塩がなくなり、生長不振や藻体の色調が低下する（色落ち）被害が発生することがあります。

また、県沿岸でしばしば発生する貝類の毒化、いわゆる「貝毒」は、ごく微量の毒素を持つ植物プランクトン（有毒プランクトン）を貝が食べることで、貝の体内に毒素が蓄積されることが原因です。毒化した貝は出荷自主規制の措置が取られるため、カキ養殖業者や二貝類を漁獲する漁業者は大きな損害を被ることがあります。



写真1 ノクテルカ シンチランス(夜光虫)赤潮 (2026.4.16 北灘沿岸)



写真2 藻類の色落ち原因プランクトンの代表種 ユーカンピア ゾディアクス

### 「徳島県沿岸の有害・有毒プランクトン図鑑」の公表

近年、本県沿岸における赤潮の発生件数は5件未満で、過去と比較すると落ち着いた状況にありますが、赤潮による漁業被害は今でも発生しています。また、これまで発生が少なかったプランクトンが増殖するようになったり、20年以上、高密度化がみられなかった

プランクトンが、突如として赤潮化したりすることがあります。これらの出現頻度の多くないものについては発生時に漁業者から問い合わせがあることも少なくありません。

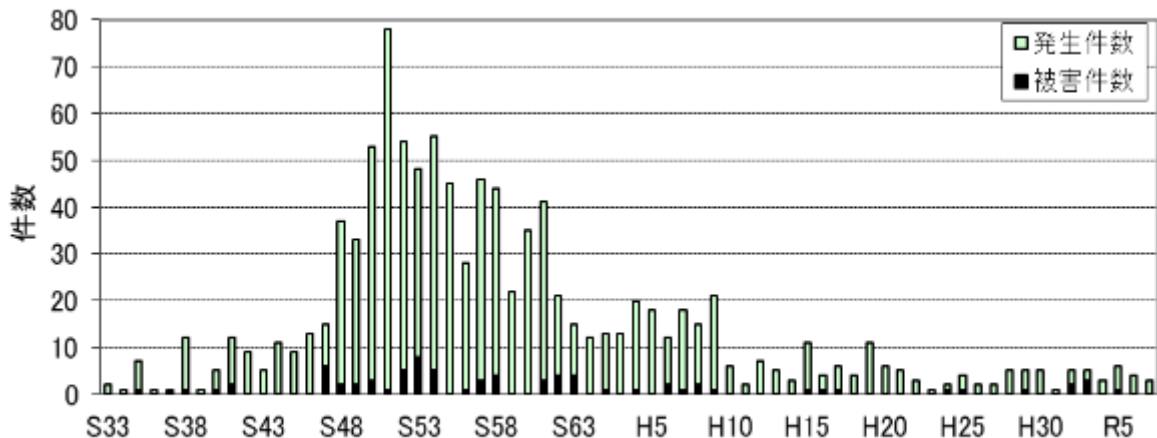


図1 徳島県沿岸における赤潮および漁業被害の発生件数。

そこで、この度、県HPにおいて「徳島県沿岸の有害・有毒プランクトン」のページを新たに作成しました。本ページでは、県沿岸で発生する有害・有毒プランクトンの基本的な生態や漁業への影響、過去の発生状況について解説するとともに、これらに対する県の監視体制をまとめています。(図2)。養殖業者をはじめとした漁業関係者の参考としてはもちろん、一般の方にも、徳島県の沿岸環境や水産業への理解を深める資料としてご活用いただければ幸いです。

現時点では代表的なプランクトンのみを掲載していますが、今後も状況に応じて内容の充実を図っていきます。ご興味のある方は、ぜひ一度のぞいてみてください。

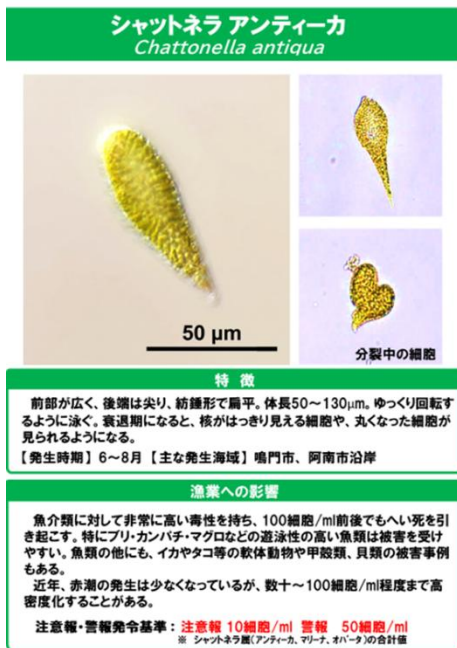


図2 (左) 公開したプランクトン図鑑の一例。(右) 本ページは水産研究課HP (<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/suisan/>)の「資料」に掲載しています。